



秋まきたまねぎ栽培における畦間かん水の効果

【1 成果概要】

秋まきたまねぎ栽培において5～6月に土壌表面に乾燥によるひび割れが発生した場合、畦間かん水を実施すると1球重が10%以上増加します(図1、表1)



図1 かん水直前の畦部の土壌表面(左)と畦間かん水実施風景(右)

表1 畦間かん水の有無が1球重等に及ぼす影響

年次	かん水の有無	1球重 (g)	腐敗 球率 (%)	商品収量 (t/10a)**
R2産	畦間かん水あり	289.9 (126)	0.8	5.84 (131)
	(対照)かん水なし	229.3 (100)	0	4.47 (100)
R4産	畦間かん水あり	286.5 (110)	0.8	6.31 (112)
	(対照)かん水なし	260.2 (100)	0.8	5.62 (100)

※1区40球×3カ所調査の平均値を示す

※※規格外、欠株、腐敗球、裂皮球、外部分球、抽苔球を除いたもの

※※※カッコ内の数値は対照区(かん水なし)を100とした場合の比率を示す。

【2 効果】

水田転換畑におけるたまねぎ栽培の収量増加に寄与します。

【3 留意事項】

- (1) 品種「もみじ3号」での試験結果です。
- (2) 畦間かん水の開始判断は土壌表面のひび割れ開始を目安とし(図1)、2回目以降は土壌表面の乾き具合を元に判断し、葉身が倒伏する頃までに終えてください。
- (3) 畦間かん水による腐敗球の増加は認められませんでした。
- (4) 水田転換畑の畦間かん水では長期間の停滞水が無いよう排水性に十分留意し、病害予防のため夕方まで滞水しない下さい。
- (5) 詳細については、「令和4年度試験研究成果書」をご覧ください。

【4 適応対象】

- (1) 地帯 県内全域
- (2) 対象者 J A営農指導員、農業普及員等